

NEWS LETTER vol. 12 <2008年3月号>

■【トピックス】

株はどこまで下がるのか？



米国のサブプライム問題や景気の先行き不安から日本の株価が下落し続けています。

PBR（株価純資産倍率）がすでに一倍を割っている銘柄が多数出ていますが、企業の業績から見るとこれは異常なことです。

理論的には、会社の株を全部買い取って、清算した方が儲かるのですから。

それにしても、このような状況にこの国の政府は無策すぎると思うのですがいかがでしょうか？

■【ビジネス・アイ】

MBO（その1）

社長 「中小企業庁主催の事業承継セミナーに行ったら、事業承継には、親族内承継とM&Aと、それからMBOとかいうのがあるって聞いていたけど、うちもそろそろ本気で考えないといけないね」

花野 「そうですね。最近はお役所も中小企業の事業承継に力を入れていますからね。税制面でも相続税の大改革が行なわれる予定ですし、ちょうどいい時期かもしれませんね」

社長 「そうだね。ところで、MBOってイマイチよく分からなかったけど説明してくれるかな」

花野 「ええ、いいですよ。MBOというのは、会社の役員や従業員が、その会社の株式を買い取って自分達が会社のオーナーになることをいいます」

社長 「つまり、オーナーが役員や従業員に会社を売るといことかな？」

花野 「その通りです」

社長 「でもうちの役員や従業員に会社の株式を買い取る資金はないよ」

花野 「そこなんです。MBOの場合、役員や従業員は自己資金だけでなく銀行や投資会社などからの資金も入れて会社を買い取るのです」

社長 「ということは、会社にそれだけ魅力がないと資金は出ないわけだから、キチンとした会社しか使えない手法ともいえるんだね」

花野 「おっしゃるとおりです」

■【今月のキーワード】

MBO（Management Buy-Out）

オーナーでない会社の経営者や従業員が、自社の株式を取得して自らオーナーになる手法がMBOです。

最近では大企業だけでなく、中小企業の事業承継の手段として注目が集まっています。ただ、経営者や従業員の手持ちの資金は限られていますから、銀行から融資を受けるか、投資家や投資会社（ベンチャー・キャピタル）に出資を仰ぐことになります。

そうするとMBOをする会社自体に投資対象としての魅力が必要になります。

■【今月の1冊】

『エコノミック・ヒットマン』

ジョン・パークINS 著 東洋経済新報社

¥1,800

アメリカがいかに、武器を使わずに発展途上国を食いもの（植民地化）にしてきたか、その内幕を暴露した本です。

著者は、長年一流コンサル会社のチーフエコノミストとして、多くの発展途上国を陥れてきました。

しかし、最後は良心の呵責に耐え切れず、そのすべてを告白しました。

アメリカではベストセラーになったようですが、日本人こそ一読すべき本かもしれません。



■【編集後記】

昨年からはじめたこのニュースレターも今月号で通算12号、ちょうど1年です。なんとか毎月休まず発行してきました。

これからも、経営に役立つタイムリーな話題を提供していきますのでよろしくお願いします。

『NEWS LETTER』vol. 12（毎月1日発行）

●定価：2,400円/年 ●発行日：2008.3.1 ●発行人：花野康成

●編集・発行：有限会社ビジネス・インスパイア

〒460-0003 名古屋市中区錦3丁目1番30号錦丸エビル5F

TEL.052-205-6361 FAX.052-204-8808

<http://homepage3.nifty.com/binspire/>